

第二講

次の文章を読んで、後の問に答えよ。

高倉院の御時、御殿の上に、鶺鴒ぬえの鳴きけるを、あしきことなりとて、いかがすべきといふことにてありけるを、ある人、頼政に射させらるべきよし申しければ、¹さりなむとて、召されて参りにけり。このよしを仰せらるるに、かしこまりて宣旨せんじを承りて、心の中に思ひけるは、昼だにも、小さき鳥なれば得がたきを、五月の空、闇深く、雨さへ降りて、いふばかりなし。われすでに、弓箭きゅうせんの冥加みやが尽きにけりと思ひて、八幡大菩薩を念じ奉りて、声を尋ねて矢を放つ。応こたふるやうに覚えければ、寄りて見るに、あやまたずあたりにけり。天気よりはじめて、人々、感嘆いふばかりなし。後徳大寺の左大臣、その時中納言にて、禄ろくを掛けられけるに、かくなむ、

ほととぎす雲居に名をもあぐるかな

頼政、とりもあへず、

弓張り月のいるにまかせて

と付けたりける、²いみじかりけり。まかり出づるのちに、

昔養由雲外射雁 今頼政雨中得鶺鴒

とぞ感ぜられける。

頼政、曇目ひきめのほかに、征矢そやをとり具して、持ちたりけるを、のちに人の問ひければ、「もし不覚かきたらば、申し行ひたりける人を射むがためなり」とぞ答へける。

〔出典〕
○十訓抄

(注) ○鵠＝鳥の名。とらつぐみの異名。凶鳥と考えられた。

○冥加＝神仏が人に与える恩恵。神仏の助け。

○天気＝天皇のご機嫌。

○暮目＝やじりの一種。とぶときに鳴りひびく。

○征矢＝戦陣で用いる矢。

問一 傍線部1「さりなむ」・2「いみじかりけり」を現代語訳せよ。

2	1

問二 後徳大寺の左大臣の「ほととぎす雲居に名をもあぐるかな」はどういうことを言っているのか、具体的に説明せよ。

--

【練習問題】

次の文章を読んで、後の問に答えよ。(設問の都合で、送り仮名を省略したところがある。)

務光者、夏時人也。耳長七寸、好琴、服蒲韭根。

殷湯将伐桀、因光而謀。光曰、「非吾事也。」湯曰、

「孰可。」曰、「吾不知也。」湯曰、「伊尹何如。」曰、「強力

忍詬。吾不知其他。」

湯既克桀、以天下讓於光、曰、「智者謀之、武者遂

之、仁者居之、古之道也。吾子胡不遂之。請相吾

子。」光辞曰、「廢上非義也、殺人非仁也。人犯其難、

我享其利、非廉也。吾聞、「非義不受其祿、無道之

問二 傍線部①「服」と同じ意味の「服」を含む熟語を、次のイ～ホの中から一つ選び、記号で答えよ。

- イ 衣服
- ロ 服用
- ハ 屈服
- ニ 服役
- ホ 征服

問三 傍線部②「吾不_レ知_二其他_一」とはどういうことか。簡潔に説明せよ。

問四 傍線部③「請相_二吾子_一」を平易な現代語に訳せ。